

FY2022 3Q (2022年3月期 第3四半期) 決算説明会 Q&A

●第1回：2022年1月31日 (Q1~Q18)

●第2回：2022年2月22日 (Q19~Q25)

第1回 2022年1月31日 (Q1~Q18)		
Q1	SPE	3QのSPEの営業利益がついに20%を超えた。2Qからさらに1.3ポイント改善しているが、ボリューム効果、製品ミックスなど、何が貢献したのか？また、来期はさらに生産性改善余地あり？
A1		生産性改善については、期中に(主力工場S ³ -3の)稼働率を上げた効果も効いているが、やはりボリュームが最も効いている。また、ミックスも良く、製造変動比率が良かった。生産性改善の観点から、S ³ -3はフルキャパまで上がっているの、自動化工場(としてメリット)を(さらに効果的に)活用していくという意味では、さらなるS ³ -3のキャパアップが必要。我々の来期以降の視点としては、不採算事業をどう立て直すかに移っていく。
Q2	SPE	4QのSPE利益率が18%台に低下するとの予想は、どのようなリスクを見込んでいるのか？
A2		ミックスと、部材の長納期化やコスト高などの要因を見込んであるが、なんとかマネージしていきたいと考えている。(10月/2Q決算時に発表した)修正計画の数値を最低必達ラインとして頑張っていきたい。
Q3	SPE	今後の受注の方向感について。(4Q以降も)900億円台後半で2四半期推移するとの説明だったが、アプリケーション別の中身の変化は？何か減るようなアプリケーションはあるか？
A3		若干のこぼこはあるが、3Qの受注傾向とほぼ同じような形(比率)で4Qは推移すると思っている。1Qになると少しファウンドリーが強くなる想定だが、1Q受注予定の装置の最終納入タイミングはまだ動く可能性があるため、(現時点では)受注がどのような振り分けになるのか(明確には)わからない。(中には)減るものも当然だろうが、全体的には非常に強い受注環境になるう。
Q4	SPE	新棟S ³ -4の発表について。総額100億円の投資とのことだが、来期の設備投資額、減価償却の方向感は？2023年1月稼働開始では4Qしか(売上に)寄与しないが、期初段階から期末にかけて(生産)キャパがどのように上がっていくのか？また、(減価)償却は来期には大きくは増えないのか？など、イメージを教えてください。
A4		来期計画の精査はまだこれからだが、通常の(設備)投資額に(今回の総額100億円の投資が)上積みされるイメージと捉えていただければと思う。期中に分散しながら投資してゆき、竣工は4Qを予定。減価償却の投入(増額)はそのあたりになるだろう。売上については、足元の4Qの売上が向こう一年間続くイメージだと見ている。
Q5	SPE	不採算事業の見直しやS ³ -4の寄与などを含め、来期の収益性改善のイメージは？
A5		中期計画では20%を目指してやっていくと話してきたとおりのイメージ(中期経営計画の一年前倒し達成)。(今後は)安定的に20%を出せる目線を考えていきたい。

Q6	SPE	洗浄装置のシェアが動いているような感覚だが、競争状況に何か変化はないか？可能な範囲で教えていただきたい。
A6		当社が新たに獲得した POR もあるし、競合が取った POR もあり、我々の感覚ではシェアとしてはあまり動いていない印象を持っている。
Q7	SPE	部材不足について、4 Q (1~3月) への影響はどうか (米国企業の決算では影響が出ているようだが) ?
A7		1~3月の売上分に関しては、色々な部材が不足してきている。特に半導体やプラスチック材などが顕著。現在精査中だが、今期の売上計画を死守すべく一丸となって動いている。どちらかと言えば、来期へのインパクトが顕在化しそうな印象を持っている。
Q8	SPE	スライド P.14 のアプリケーション別動向で、ファウンドリーで「微細化に伴う洗浄ニーズ増加」とあるが、もう少し具体的に解説してほしい。CY2022 の WFE の見通しを 10%以上増加と見ているが、SCREEN の売上は WFE をアウトパフォームする方向か？
A8		微細化に伴い EUV 採用工程が増えてゆく中で、歩留まり向上を目指したデフォーカシングを防ぐための洗浄が重要性を増し、バックサイドやベベル洗浄が注目されている。そこに当社の機会があると考えます。WFE+10%については、ファウンドリーが大きく伸びるほか、ロジックも増加、メモリー、画像素子、パワーが微増というのが我々の見方。当社はファウンドリー・ロジックに強いという点から、WFE をアウトパフォームしていきたいと考えています。
Q9	SPE	SCREEN の売上・受注で、成熟ノードと先端ノードの構成比率は開示可能か？
A9		(詳細比率は非開示だが) アプリケーションで見ると「その他」と「パワー」が主に成熟ノード。地域別では「中国」が多い。ファウンドリー・ロジックは成熟ノードもやっているが、先端に比べてトータルボリュームは多くない。
Q10	SPE	(SCREEN は) 成熟ノード投資が強いが、「2023 年に (成熟ノードへの投資が) 落ち着く」と見ている人がいるが、(減少や) ブレーキを感じられるか？減少した場合、SCREEN への影響はありそうか？
A10		「成熟ノードが落ち着く」と言われている部分と、「中国が成熟ノードである」ということは、別の事象。中国市場の投資は継続すると見ているので、インパクトは低い (先ほどのプレゼンでの説明のとおり)。成熟ノードの投資自体は需給バランスが整うと徐々に後退する可能性はあるだろう。
Q11	SPE	S ³ -4 が完成しフル稼働した場合、利益率はどうなるイメージか？それによる増収効果と限界利益率が増える関係について、ご解説願いたい。不採算事業の立て直しも含め、最高でどれぐらいを見ているか？
A11		S ³ -4 の効果については、今申し上げるのは早いと思っている。今後人員を増やし、固定費のアロケーションを精査しつつ物づくりをしていく。効率化による収益貢献度を来期に向けて精査していく予定。当然ながら、利益率を上げることがボトムライン。
Q12	SPE	今後、WFE に対して洗浄比率は上がってゆくと見ているのか？また、洗浄での SCREEN のシェアはどうなるか？

A12		CY2022 から CY2023 は、微細化が進むにつれ洗浄に対する機会は増えると思っている。一方、EUV 導入でパターニング数が減るのも事実であり、WFE とほぼ横ばいになるのではないかと。さらに微細化が進めば、歩留まり向上のための洗浄の重要性がさらに増すと思っており、その時点で増加に転ずると考えている。
Q13	SPE	来期、固定費増は 50 億円～100 億円くらいのアップで収まる？どれくらいの目途で考えているか？
A13		(固定費のうち) 開発費は厚めに投入したいというのは従来からの考え。(建設予定の新棟) S ³ -4 により売上目線も上がっており、それに見合ったインフラを整えてゆかねばならない。現在精査しているため、もう少しお待ちいただきたい。
Q14	SPE	全社の粗利率は、3Q のみで見ると 33%弱ということだが、全社で利益率上がってきているこの状況は瞬間風速なのか、巡航速度なのか、どう捉えるべき？(今後) 全社の粗利率はでこぼししながらも(現状の) 33%程度を維持できるのか？
A14		粗利についての具体的な数字は差し控えたい。GA、FT、PE は部材調達の高コストに直面しつつあるが、SPE がけん引し全体を補えるものと考えている。
Q15	SPE	CY2022 はロジック・ファウンドリーの投資(が多く)、SCREEN は WFE 以上に成長するとの見方だが、22 年は(半導体デバイスメーカーの) ファブ(工場) 建設への投資が多いと思うので、装置市場は 23 年の方が強いのではとの見方もある。CY2023 の見立てはどうか？他方、調整が 23 年に来るとの見方もあるが、どう見ている？
A15		CY2022 の WFE をプラス 10%以上としているが、業界全体に部材不足が波及、長納期化しており、このあたりのインパクトがどれくらい出てくるかは 10%の見立てには含まれていない。従い、CY2023 年はその影響次第だろう。「23 年はあまり落ち込まないのではないか」と前回申し上げて(皆さんに) 驚かれたが、その感触がさらに強くなっている。(工場) 建設計画が 23 年にある分も合わせて、かなり強い WFE になるとの印象である。
Q16	SPE	MOL、バックサイド、ベベル洗浄の製品を出されているが、(今後) このあたりは利益的にどう効いてくるのか？競争が厳しい中、利益面でマイナスになることも想定？
A16		競合が既に P O R を持っているところを攻めているのではなく、プロセスが変わっていくところにニッチなソリューションを提供している。収益的に苦しくなる見立てではない。現在顧客とのパイプラインを通じて評価しており、結果がでたらお話ししたい。
Q17	SPE	4Q の売上が(この先) 1 年続くイメージとのご説明だったが、単純に 4Q の売上が続くと考えれば、CY ベースで 25%くらい伸びる計算になる。(CY2022 の WFE 予想である) +10%と比較すると 2 倍以上伸びてしまうように思えるが、そのあたりのイメージはいかがか？また、先日業界紙に「来期の売上には半導体不足を織り込まないといけない」とコメントされていたが、それでも 4Q の売上は維持できる？

A17		そのようなイメージで捉えているが、(来期の) 事業計画をこれから作っていくので、顧客の顔ぶれを精査しながら確度を上げていきたい。アウトパフォームする可能性もあると言ったが、20%オーバーするかどうか今はわからない。 部材不足については、既に顕在化しているもの、まだ顕在化していないもの、長期化しているものがあるため、来期に向けて精査していく必要あり。先ほどの数字に精査部分は織り込んでいないので、そこから下押しする可能性はある。
Q18	SPE	(今期の) 通期の研究開発費は 240 億円の計画だが、3Qまでの進捗がスローに見える。4Qで(残り) 全てを使えるのか？
A18		期末までには使っていきたいと、各部門から要請がきており、内容を精査しながらきちん執行していきたい。場合によって全部は使い切れないかもしれない。
第 2 回 2022 年 2 月 22 日 (Q19~Q25)		
Q19	GA	足元の市場動向はいかが？
A19		アメリカ、ヨーロッパ中心に POD 需要が回復している。今下期の業績予想については、物流コスト高騰や、部材不足を織り込み、上期比減少と慎重に見ている。
Q20	GA	来期の業績イメージは？
A20		来期も部材不足が引き続き懸案ではあるが、安定してきた RB (Recurring Business) を中心に増益を目指す。
Q21	FT	受注、引き合い状況を説明願いたい。
A21		3Q は想定を上振れたが、4Q は 2 桁億円前半を想定。中小型 OLED 投資への移行が若干遅れ気味で、LCD 投資 (高精細) は継続すると見ている。
Q22	FT	来期の業績イメージは？
A22		受注残高に鑑み、来期売上は今期並みではと見ている。利益面は、ミックス改善により多少積み増せるイメージをもっている (中小型 OLED 中心)。
Q23	PE	業績が好調な背景は？
A23		5G モバイル、データセンター向けの PCB パッケージなどが好調である。部材不足で出荷時期調整に苦慮するも、通期予想の達成を目指す。
Q24	PE	来期の業績イメージは？
A24		需要は引き続き強いが、部材不足の影響が続くと見ており、現在、業績影響を精査中。
Q25	PE	売れ筋の装置を教えてください。
A25		直描露光機の Ledia (レディア)。新機種 of Ledia Twin (レディアツイン) も顧客への浸透が進み、来期、売上増を期待している。

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、
FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業